

# Evergreen NEWS

ニュースといえば時勢に旬な話題、時が過ぎれば価値のなくなるものも多いはず。でも、振り返ってみればスウェーデンハウスには、いまでも色褪せないニュースがたくさんあります。30周年の歴史を物語るEvergreen NEWSをご紹介します。

BACK TO >>> 1991

[ トーモクヒュース株式会社設立 ]

1984

1991

1999

2000

2004

## 世界に一つを つくる。

### スウェーデンと日本、 その融合が品質を極める。

スウェーデンには、製品化や輸出を目的に育てられた「経済林」という位置づけの森林があります。ここでは、国が定めた厳しい基準のもとに計画植林が義務づけられています。そして土地が平地であるため日照の偏りがなく、木が均質に成長していきます。さらに一本一本の産地や樹齢まで追跡（トレース）できるトレーサビリティにおいて

も、北欧は世界をリードし、確かな品質の裏付けになっています。私たちが創業以来、北欧材にこだわり続けているのも、これ以上の住宅部材はないと考えているからです。一九九一年、100%スウェーデンハウス向けの住宅部材メーカー、すなわち自社工場として「トーモクヒュース株式会社（TOMOKU HUS AB）」が誕生しました。日



スウェーデンで日本の家がつくられることを紹介した当時の雑誌記事。(SAI NUMBER19 1991年11月) Insjön(インジョン)は、トーモクヒュースがある場所の地名です。

本企業がスウェーデンに進出するのは、当時としては非常に稀でした。現地ゆえに、より良質の木材を厳選でき、この国の木を知り尽くしたクラフトマンたちを集めることができます。そして自社工場ゆえに、スウェーデンハウスが考える品質への責任を、素材から製品に至るまで徹底することができます。住宅は気候風土や文化・生活に根づいた製品です。そのためクラフトマンたちは日本固有の価値観や生活観を学び、スウェーデンハウスに暮らす日本の皆様に満足して頂けることを目的にもつくり取り組みます。その結果、スウェーデンの他工場でも、日本の工場でも決して得ることができない、世界に一つの品質が生まれているのです。二〇〇二年には同じ敷地内に窓専用工場も完成。創業時からこだわり続けている木製サッシ3層ガラス窓も自社で生産できるようになりました。スウェーデンの木の家を原点に、日本の気候風土や文化に調和したスウェーデンハウスが、これらの工場から生み出されています。